

プログラム

◆ 郷土芸能 (敬称略)

- 9:55 開会 実行委員長挨拶・来賓挨拶
10:10 大船渡東高校太鼓部
10:35 臼澤鹿子踊 (大槌町)
11:00 平七福神 (大船渡市)
11:25 チンドン寺町一座 (大船渡市)
11:50 フラ・カメラリア (大船渡市)
12:10 バンブーダンス (フィリピン出身者)
12:30 河内家菊水丸一座 (大阪府)
13:00 川原鎧剣舞 (大船渡市)
13:25 行山流水戸部鹿子躍 (南三陸町)
13:50 崎浜大漁唄込 (気仙沼市)
14:10 黒森神楽 (宮古市)
14:40 法要 中尊寺・毛越寺
15:05 岩崎鬼剣舞 (北上市)
15:30 桜舞太鼓 (釜石市)
15:55 小府金神楽 (住田町)
16:20 青笹しし踊り (遠野市)
16:45 藝道宗演歌舞練会 (陸前高田市)
17:05 仰山流笹崎鹿踊 (大船渡市)
17:30 赤澤鎧剣舞 (大船渡市)

◆ 盆踊り 引続き行います

- 18:00 盆踊り開始
大船渡音頭・椿音頭・気仙甚句囃子・
マイムマイムなど (予定)。

◆ ミニライブ (順不同)

- 北湯口舞 (遠野市出身)
東 (大船渡市出身)
LAWBLOW (大船渡市出身)

- 20:00 終了予定

場所 大船渡町野々田地内 特設会場

主催 第三回「三陸海の盆」実行委員会

実行委員長 岩城恭治 (夢ネット大船渡)

副実行委員長 伊藤修 (おおふなと夢商店街)、平山徹 (大船渡市郷土芸能協会)
及川雄右 (大船渡屋台村)、新沼崇久 (大船渡復興プレハブ横丁)、
大関輝一 (みちのくふる里ネットワーク)、金野正記 (さんさんの会)

事務局長 臼澤良一 (遠野まごころネット)

後援 (順不同)

世界宗教者平和会議、国土交通省東北運輸局、岩手県沿岸広域振興局、
大船渡市、陸前高田市、住田町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、遠野市、気仙沼市、南三陸町、
東海新報社、岩手日報社、河北新報社、朝日新聞盛岡総局、読売新聞盛岡支局、毎日新聞、
NHK 盛岡放送局、テレビ岩手、IBC 岩手放送、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、FMいわて、
FM ねまらいん、陸前高田市地域女性団体協議会

三陸海の盆

第三回

8/11 (日)

出演団体紹介

大船渡東高校太鼓部（大船渡市）

大船渡東高校太鼓部は、結成 40 周年を迎えた大船渡市の長安寺太鼓保存会と 900 年の伝統を誇る陸前高田市のけんか七夕太鼓保存会の方々からご指導をいただいております、それぞれの技と心を受け継ぎ、多くの方々に“気仙の太鼓”をお届けしてまいりました。

私たちは東日本大震災以来、全国及び海外より温かい支援をいただき励まされてきました。皆様への感謝の気持ちを忘れることなく、気仙地域の復興に向け、一打一吹に心を込めて演奏したいと思っています。

臼澤鹿子踊（大槌町）

臼澤鹿子踊は、約 400 年前、江戸時代寛永年間に海産物の交易にかかわった房州（千葉県）の人から伝えられました。舞の種類は神仏礼拝、人々の作業、野生のシカの生態を模したものなど多様で、総数は 43 種類あります。特徴は「どろの木」を薄く削った「カンナガラ」をまとい、荒々しく激しい舞です。

平七福神（大船渡市）

平七福神は、昭和 2 年御代典記念祝賀会の折り、村社に大漁・豊作・家内安全・商売繁盛・無病息災などを祈願し、初めて踊られました。その後、代々継承され、第二次世界大戦・チリ地震津波などで中断しましたが、昭和 38 年加茂神社 5 年大祭の折りに復活しました。東日本大震災でも多大な被害を受けましたが、こちらは 1 年 7 か月後に復活しました。

チンドン寺町一座（大船渡市）

昭和 47 年にまちおこしに創作太鼓「長安寺太鼓保存会」を設立した、その設立メンバーが日本の古き良き時代の、あの懐かしいチンドン屋さんを始めようと平成 15 年に太鼓部門を若者に任せ、東京の菊乃家親方の指導を受けて、旗揚げしたものが「チンドン寺町一座」です。

地域の活性化と多くの人に夢と希望と元気を与え、明るく楽しく生涯現役を合言葉に日々練習に励んでおります。各種イベントに出演しながらも、目標は当地で全国大会を開催することです。

フラ・カメラリア（大船渡市）

本場・ハワイを年に数回訪れ、自然を守り続けるアロハスピリッツを学び、日々努力しているフラダンスグループ「フラ・カメラリア」です。

東日本大震災から 2 ヶ月後の 5 月に「元気はフラ・カメラリアから発信しよう！」と被災者を含む 20 数名で結束し、沿岸被災地を久慈から気仙沼までの仮設住宅を慰問してまいりました。

また、一関から盛岡までの養護施設や高齢者施設も訪問し、元気と笑顔と勇気を提供し続けて、喜んでいただいております。暖かく見守っていただきますようよろしくお願いいたします。

バンブーダンス（PAGASA 会 Iwate / PHIL com. MIYAGI）

バンブーダンスはフィリピンの民族ダンスです。

私たち「PAGASA 会 Iwate」は、大船渡市・陸前高田・住田町に住んでいる外国人コミュニティーグループです。震災前は、つながりが薄かった私たちですが、震災後にひとつのコミュニティーとして固まりました。本日は、仙台から「PHIL com. MIYAGI」が、気仙沼市からもダンスを披露しに、応援に、仲間たちが駆けつけてくれました。是非楽しんでご覧ください。

河内家菊水丸一座（大阪府）

河内家菊水丸は、河内音頭の故郷・大阪府八尾市に生まれです。9 歳で父河内家菊水に入門し、東大阪市弥刀東の盆踊りにて初櫓。高校在学中から吉本興業に所属。

2007 年 8 月、北御堂盆踊りにて前人未到の 9000 櫓を達成しました。2009 年秋からは、古調の河内音頭の保存伝承に専念。2010 年 7 月、上海万国博覧会で河内音頭を披露しました。

2011 年 8 月 11 日、東日本大震災の被災地、岩手県大槌町で開催された、第一回「三陸海の盆」から出演しています。

川原鎧剣舞（大船渡市）

鎧剣舞は、壇ノ浦で滅亡した平家一門が、武者の亡霊となって源義経一行を苦しめた時、武蔵坊弁慶が経巻を取り出し、その経文を高らかに読み上げ、遂に平家の亡霊を退散させ、浄仏させたものを演舞化したものといわれています。

川原鎧剣舞は、江戸時代末期から地域の青年有志により踊り継がれてきましたが、一度途絶え、明治時代に復活しました。昭和 11 年には、立根町川原地域と久保地域の住民が協力して保存会を結成し、現在まで積極的に活動しています。※ 大船渡市無形民俗文化財（昭和 44 年指定）

行山流水戸部鹿子躍（南三陸町）

行山流水戸部鹿子躍は今からおそよ 300 年以上前、登米領主（現 登米市）伊達式部宗倫様召抱え、本吉郡水戸辺村住人 伊藤伴内持遠が鹿子躍と名付け創始したものと伝えられています。

実はそれまで水戸辺地区には、鹿子躍に関する言い伝えや記述がなかったのですが、昭和 57 年一関市舞川鹿子躍に伝わる巻物から、発祥の地は本吉郡水戸辺村ということが判りました。同年それを裏付ける石碑が水戸辺地区の小高い丘の上から発見されました。

平成 23 年 3 月 11 日の大津波により地区のセンターごと太鼓・衣装などすべて流出してしまいましたが、奇跡的に瓦礫の中から一つまた一つとどろだらけになった道具が見つかり、なんとか躍れるだけの数が集まり、被災した子供たちを中心とした踊りを復活。全国の大勢の方々の善意とご支援をいただき、震災で亡くなった多くの方々のご冥福と一日も早い復興を願って活動しております。

崎浜大漁唄込（気仙沼市）

昭和 43 年、唐桑半島御崎（おさき）に建てられた大漁祈念碑には、「天運循環」の文字が刻まれています。以前の大漁から 60 年目のこの年に必ず大量に恵まれるという祖父の教えを信じ、起死回生にかけた網元の願いが通じ、5 か月間になんと 10 万匹の本マグロを漁獲したという記録が残されています。崎浜大漁唄込みが現在のスタイルで唄われたのもこの頃からだと言われています。悪いことばかりは続かない、頑張り続ければきっといい日がやってくる。大震災からの復興に向かう今だからこそ、私たちは「天運循環」の意味をかみしめながら「大漁唄込み」を歌い続けていこうと思います。

黒森神楽（宮古市）

黒森神楽は、宮古市山口に鎮座する黒森神社を本拠地としています。正月になると、黒森神社の神霊を移した「権現様」（獅子頭）を携えて、陸中沿岸の集落を回り、家々の庭先で権現舞を舞って悪魔祓いや火伏せの祈禱を行います。夜は宿となった民家の座敷に神楽幕を張りよる神楽を演じて、五穀豊穣・大漁成就や天下泰平などの祈禱の舞によって人々を楽しませ祝福をもたらしています。この巡行は旧盛岡藩の沿岸部を山口から久慈まで北上する「北回り」と 釜石市まで南下する「南回り」に隔年で廻村し、近世初期からその範囲は変わっていない。

こうした広範囲で長期にわたる巡行を行う神楽は、全国的にも類例がなく、貴重な習俗が現在も継続されていることから、昭和 18 年 3 月に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

岩崎鬼剣舞（北上市）

北上市に伝わる鬼剣舞の源流。北上和賀地方への伝承時期は不明だが、康平時代（1058～65）、安部頼時の子の黒沢尻五郎正任がこの踊りを好み、将兵の出陣や凱旋の際に踊らせたのが広く伝わったといわれています。また享保 17（1732）年の『念仏剣舞由来録』には、延文 5（1360）年、岩崎城主の岩崎弥十郎が主君の和賀政義を城に招き、剣舞を踊らせたところ政義が大いに喜び、家紋の笹リンドウの使用を許したという記述があります。

正しくは「念仏剣舞」のひとつですが、威嚇的な鬼のような面（仏の化身）をつけ勇壮に踊るところから、明治後期以降（1897 年(明治 30 年)頃）「鬼剣舞」と呼称されるようになりました。

桜舞太鼓（釜石市）

本郷・桜舞太鼓は、釜石市唐丹町で昭和 28 年に発足して以来、その技を磨きながら伝承されてきた太鼓であります。その特徴は、桜の花びらが舞い踊る様をイメージした一糸乱れぬ「桜舞流舞打ち」にあります。現代は、平成 12 年に結成された『鼓舞櫻会（こぶおうかい）』が、舞打ちの伝承活動及び創作曲にも力を注ぎ、活動を行っております。

平成 23 年 3 月 11 日、東日本大震災にて甚大な被害に遭いながらも、支援を受けて、同年 7 月に復活を果たし活動を再開。現在も尚一歩一歩復興へと向けた活動を展開しております。

小府金神楽（住田町）

小府金神楽は、遠野市小友町長野部落に伝わる南部神楽を習得した及川重作なる者が、明治 38 年気仙郡世田米村字小府金に移住し、小府金部落の要望により身につけた神楽を教えたのが始まりとされています。部落民の努力により、当時数少ない娯楽として地区の人たちに伝承され、後世に残る小府金神楽が誕生しました。いわゆる南部神楽の継投で山伏神楽の要素を取り入れながら、狂言・故事・由来なども取り入れ脚色された大衆的な踊りとなっています。

青笹しし踊り（遠野市）

青笹しし踊りは、1700 年代はじめの頃「踊り嘉兵衛」という人物によって伝えられたといわれています。（「踊り嘉兵衛」の墓は遠野市土淵町飯豊地区にあり、現在では毎年 11 月 23 日に墓前で踊り供養をし、その年の踊り収めとしております。

昭和39年に、青笹地区の「糠前」「中下」「中沢」の三集落で継承されていた3つのしし踊りが統合し、現在の「青笹しし踊り」となり、昭和40年に当保存会が結成されました。統合された昭和39年に遠野市指定無形文化財となり、昭和49年には岩手県から無形文化財の指定を受け、昭和53年には文化庁から「記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財」として選択されました。

藝道宗演歌舞練会（陸前高田市）

只出の漁師の倅、善治は故あって仙台の住人で元歌舞伎役者に師事して歌舞伎踊りを習い、明治14年18歳で免許皆伝、呼号善治郎を襲名。習得した芸能を祭典芸能演技として近在の人々に伝授しました。しかし、昭和40年ごろまで続いたこの伝統芸能は流行のレコード踊りに追いやられてまったく姿を消してしまいます。しかし、昭和56年には保存会が結成され、現在は伝統芸能を愛する人たちによって、善治、法名「藝道宗演」の名をとり、藝道宗演歌舞練会としてその芸の神髄に迫る努力をしています。

仰山流笹崎鹿踊（大船渡市）

仰山流鹿踊は地元大船渡町笹崎地区に伝わる郷土芸能団体です。

2011年の東日本大震災により、先祖より伝わりし装束・太鼓一切を流失致しましたが、日本財団様はじめ全国の方々より復活に役立ててくださいという温かいご支援をいただき昨年ようやく伝統活動ができるまでになりました。

本日ご来場の皆様に踊りを披露できますのも、全国各地の皆様と本日会場に来ていただきました皆様の温かいご支援・ご協力のたまものと保存会会員一同心より感謝申し上げます。

東日本大震災にて亡くなられた方々の慰霊の気持ちを込めて最後まで一生懸命踊りますので、どうぞご覧下さいませようお願い申し上げます

赤澤鎧剣舞（大船渡市）

赤澤鎧剣舞は阿修羅系の仮面を持つ鎧剣舞で、盆の精霊供養として古くから伝承されてきました。毎年、盆に合わせて地域内の各家庭や西光寺などを回り、平家の武者たちの亡霊が次々に退散していく様子などを演じます。以前は脱垂剣舞の装束でしたが、100年ほど前からは鎧を着用し舞うようになりました。踊り手は10人で、これに囃し方がつきます。大船渡の代表的な郷土芸能の一つです。

本日は、東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福と一日も早い復興を祈念し踊ります。

